

ヒメマルカツオブシムシ

東京の
生活害虫

1



●成虫 (体長約3mm)



●若い幼虫

●成熟した幼虫 (体長約5mm)



●被害を受けた布

知らぬ間にウールの服に穴があいていた。その犯人の多くは、ヒメマルカツオブシムシです。

形態と被害

成虫は体長3mmくらい、楕円形をしています。背中に白・茶・黒のまだら模様があります。成虫は野外の花に集まり、花粉や花蜜を食べています。

幼虫は太ったウジ状で、濃褐色の毛をもち、成熟すると体長5mmくらいになり、活発に動きます。

幼虫は毛織物、毛糸、羽毛、干魚、動物標本など、動物質を食害します。暗い場所を好むので、押入れやタンスの中での被害が多くみられます。

室内で幼虫の時期を過ごし、春から初夏にかけて成虫になります。この時期に室内で多数の成虫が見つかる場合には、すでに被害を受けていますので、よく調べてみてください。成虫は産卵後、野外に移動します。

防除

ごく普通に見られる虫なので、野外からの侵入防止は困難です。ウール製品や毛糸は、防虫剤を入れて密封した袋などに収納するのがいちばん良い方法です。





●成虫(開張¹⁾約13mm)



●幼虫(体長約8mm)



●食害されたフェルト

蛾のなかには、幼虫が動物性の繊維に被害を与える種類があります。イガ(衣蛾)やコイガ(小衣蛾)です。

形態と被害

成虫は小さな蛾で、翅の開張¹⁾は13mmほどです。光沢のある薄い黄色をしており、翅には紋がありません。

幼虫は成長すると体長8mmくらいの、白く細長いイモムシ状になります。

幼虫が毛織物や毛糸、羽毛などを食害し、穴をあけます。被害を受けた布などの上に繊維や糞をつづりあわせて、トンネル状の通路をつくるのが特徴です。

コイガによく似たイガという種類もあり、加害のようすはコイガと同じです。成虫の翅は光沢のある灰色で黒点があり、幼虫が繊維や糞をつづった巣²⁾を背負って歩く、などが違う点です。

なお、毛織物などの被害はイガやコイガよりも、ヒメマルカツオブシムシの方が多くみられます。

防除

洋服ダンスなどの中で蛾が何匹も見つかったら、念のために衣類を調べ陽に干してください。ウール製品や毛糸は、防虫剤を入れて密閉した袋などに収納するのがいちばん良い方法です。

¹⁾翅を左右いっぱい開いた時の翅の先から先までの幅

²⁾イモムシのように筒状に作った巣

ときどき床で大発生 カツオブシムシのなかま

東京の
生活害虫

3



●ヒメカツオブシムシ成虫と幼虫(体長は成虫4mm、幼虫9mm)



●ハラジロカツオブシムシ
(体長7~8mm)

●コルクに穴をあける
ハラジロカツオブシムシ幼虫



●カドマルカツオブシムシ成虫と幼虫(体長は成虫7mm、幼虫10mm)



●ペットフードに発生した幼虫

カツオブシムシのなかまには、毛織物などに被害を与える種類があります。重要な種類はヒメカツオブシムシ、ハラジロカツオブシムシ、トビカツオブシムシ、カドマルカツオブシムシなどです。

形態と被害

成虫の体長は種類により異なり、およそ3mmから10mmくらいです。黒い色をした種類が多くみられます。

幼虫は大きい場合は体長10mmをこえ、茶色か黒で、剛毛をもちます。一般に動きは活発です。

成虫・幼虫ともに乾燥した動物質を好み、毛織物、ジュタン、毛皮、毛糸、羽毛、干魚、かつお節、ペットフード、動物標本などが被害を受けます。

学校や体育館など、板敷きの床に幼虫が大量に発生することがありますが、これは板の間につまったゴミが幼虫の餌になるためです。なお、ハラジロカツオブシムシなどは成熟幼虫*が木材に穴をあけることがあります。

防除

発生源となった品物を探して処分します。床で大発生した場合は目地などのゴミを取り除き、殺虫剤で処理します。発生源が不明な場合、ジュタンの裏や鳥カゴなども調べてみてください。

*サナギになる直前の幼虫



●コクゾウムシ成虫(体長約3mm)



●アズキゾウムシ成虫(体長2~3mm)



●アズキのゼリーに混入していたアズキゾウムシ

コメやアズキは案外に虫がつきやすいものです。その多くは、小さな甲虫のなかまです。

コクゾウムシ

“お米につく虫”として昔から有名です。成虫の体長は3mm前後、紡すい型をした黒褐色の小さな甲虫で、よく見ると象の鼻のような長い口(口吻)をしています。

成虫・幼虫ともにコメやムギに被害を与えます。幼虫は白いウジ状で、穀粒の内部で成長します。

ときどきタタミから発生することがありますが、これは畳床のワラに穀粒が残っていたためです。

アズキゾウムシ

長く貯蔵されたアズキによく発生する虫です。成虫は体長2~3mmで赤褐色、室内を飛んでいるのがよく見つかります。幼虫はアズキの内部で成長し豆を穴だらけにします。

成虫になるまでの期間が短いため、短期間で大量に発生することがあります。

防除

コメやアズキの長期保管は避け、早めに使用します。保管する場合は容器を密閉し、なるべく低温に保ちます。被害を受けたコメなどは良く陽に干します。



●ノシメマダラメイガ成虫(開張*約15mm)



●ノシメマダラメイガ成虫(体長約10mm)



●被害を受けたクルミ(左)とナッツ入りキャンディー(右)

食品を加害するメイガにはたくさんの種類がありますが、ノシメマダラメイガの幼虫による被害がもっとも多くみられます。

形態と被害

ノシメマダラメイガはノシメコクガともいわれ、代表的な食品害虫です。

成虫は開張*15mmほどの蛾で、翅は白と赤茶色をしています。室内をチラチラと飛びまわるのがよく見られ、餌や餌の周辺に数十個から二百個以上の卵を産みつけます。成虫は餌をとらず、食品に被害を与えることはありません。

幼虫は細長いイモムシ状で、十分に成長すると体長10mm前後になります。普通は淡黄色ですが、白・ピンク・淡緑色などを帯びることもあります。

幼虫は穀物、穀粉、乾めん、菓子、乾燥野菜、乾燥果実、ナッツ、チョコレート、七味唐辛子、小鳥の餌など、さまざまな食品に被害を与えます。餌のクズが糸でつづられたようになるのが特徴です。

防除

発生源を確かめ、幼虫のついた食品を処分します。食品棚にこぼれた少量の粉などが、原因になることもありますので、よく調べてください。

*翅を左右いっぱいを開いた時の翅の先から先までの幅



●ノコギリヒラタムシ成虫(体長約3mm)



●ノコギリヒラタムシ幼虫(体長約5mm)



●コクヌストモドキ成虫(体長3~4mm)

ビスケットやクッキーなどを放置しておくと、知らぬ間に虫がつくことがあります。お菓子のクズが糸でつづられているときはメイガ類、糸がないときはノコギリヒラタムシやコクヌストモドキなどの甲虫類であることが多いのです。

ノコギリヒラタムシ

体長3mmくらいの、褐色をした細長い甲虫です。胸の両側がノコギリの歯のような形をしているため、この名があります。以前はノコギリコクヌストともいわれました。

成虫・幼虫とも穀物、穀粉、穀粉製品などに被害を与え、家庭ではビスケットなどのお菓子や、新しいソバガラ枕などによく発生します。

コクヌストモドキ

体長3~4mm、赤褐色をした細長い甲虫で、名前のコクヌストは“穀盗人”の意味です。

成虫・幼虫とも穀粉や穀粉製品などに被害を与え、前種と同様、家庭ではビスケットなどによく発生します。

防除

お菓子を開封したまま放置しないことです。密閉した状態のまま、なるべく低温で保存します。



●タバコシバンムシ成虫
(体長約2~3mm)

●幼虫とマユ



●ココアに発生した幼虫



●ドライフラワーにあいた脱出孔

世界各地に分布する害虫で、被害を与える範囲が広いので有名です。

形態と被害

成虫は体長2~3mm、赤褐色で丸みを帯びています。室内でよく見つかりますが、成虫は餌をとりません。

成熟した幼虫は体長3mmほどで、白いウジ状、C字形をしています。

幼虫は、乾燥した植物質を中心にさまざまなものを食害します。たとえば、^{こむぎ}穀粉、乾めん、菓子、チョコレート、各種のスパイス、ココア、ハーブ、漢方薬、タバコ、ドライフラワー、タタミ、油かすなど。また動物質では干魚、ペットフード、昆虫の死骸などです。

タタミなどでは、表面に成虫の脱出孔(直径1~2mmの穴)があきますので、発生の目印になります。たくさん発生すると、寄生蜂のシバンムシアリガタバチと一緒に発生し、人を刺すことがあるので、注意してください。

よく似た虫にジンサンシバンムシがあり、生態は同様ですが、東京ではタバコシバンムシが多くみられます。

防除

被害を受けた品物が小さければ電子レンジで加熱するか、冷凍庫へ一晩入れておくと駆除できます。発生源が不明なときはタタミの裏、ドライフラワー、ペットや魚の餌などもよく調べてください。タタミは加熱乾燥が効果的です。

ラワン材などに穴をあける ヒラタキクイムシ

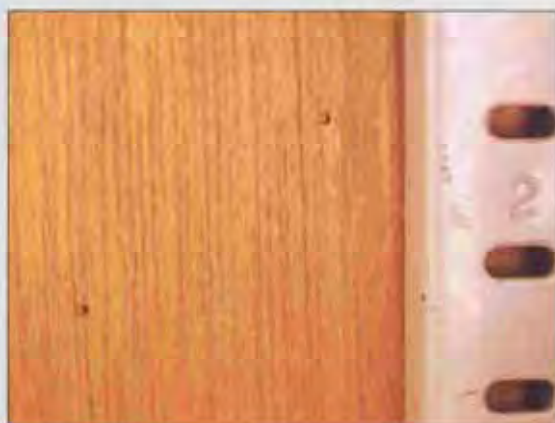
東京の
生活害虫
8



●ヒラタキクイムシ成虫(体長約3~6mm)



●被害を受けた集成材



●ラワン材の脱出孔

ラワン材などの表面に粉がこぼれ、小さな穴があくことがあります。これはヒラタキクイムシなどの仕業です。

形態と被害

成虫は細長く平たい甲虫です。体長には幅があり、3~6mmほどで、赤褐色をしています。幼虫は白いウジ状でC字型をしています。

成虫が木材の表面に産卵し、幼虫が木材の内部を食害します。春から初夏にかけて、木材の表面に穴をあけて成虫が脱出すると、そこに小さな粉のような粉がこぼれます。

最も被害を受けやすいのはラワン材ですが、ナラやキリなどの広葉樹材が被害を受けることもあります。わりあい新しい家屋や家具で、被害が多くみられます。

防除

木材に塗料やニスなどが塗ってあれば、普通は成虫が産卵できません。被害を受けた木材や周辺の木材が生地のままなら、表面を塗装しておきます。成虫そのものは、家庭用のスプレー式殺虫剤で駆除できます。



いろいろな木材に被害を与える ナガシクイムシなど

東京の
生活害虫

9



●チビタケナガシクイ成虫

●被害を受けた木材

家具や家屋に被害を与える虫には、たくさんの種類があります。最近増えている例を紹介しましょう。

チビタケナガシクイ

円筒形をした小さな甲虫です。成虫の体長は3mm前後、こげ茶色をしています。昔から竹材の害虫として有名でしたが、最近^こは籐の被害が増えています。幼虫が内部に被害を与え、成虫が小さな穴をあけて出てきます。



●オオナガシクイ成虫(体長10mm)

オオナガシクイ

円筒形をした棒のような甲虫です。成虫の体長は10mm前後で、黒褐色をしています。最近、輸入材(主に家具)の被害が増えており、幼虫が直径5mm前後の大きな穴をあけます。



●オオナガシクイの被害(ゴムノキ)

オオナガシバンムシ

細長い甲虫です。成虫の体長は5~7mm、赤褐色をしています。関東地方では増えているようで、室内で発見されます。被害の実態はよくわかっていませんが、他県では体育館の床板で大発生した例があります。



●オオナガシバンムシ成虫(体長5~7mm)

防除

被害を受けてはじめて気付くため、あまりよい防除法がありません。籐製の小さな細工物などは、冷凍庫で冷凍すると内部の虫が駆除できます。





●チャタテムシ(ヒラタチャタテ)



●翅のあるチャタテムシ(体長約2mm)



●シミ(ヤマトシミ)

ともに室内で見つかり、人に不快感を与えます。大きな害はありません。

チャタテムシ

体長1mmほどの淡黄色～淡褐色をした小さな虫で、よくダニと間違えられます。どこの家庭でも見られますが、小さいのであまり気がつきません。

成虫・幼虫ともカビや動植物質の細片を食べ、やや湿度の高い環境を好みます。乾燥食品につくこともありますが、食品をボロボロにすることはありません。

普通に見られるのは小さくて翅のないコナチャタテ類ですが、ときどき、大型でよく飛ぶ有翅チャタテムシ類が室内で発生することがあります。新築家屋や高湿度の場所で発生し、やはりカビを好みます。

シミ

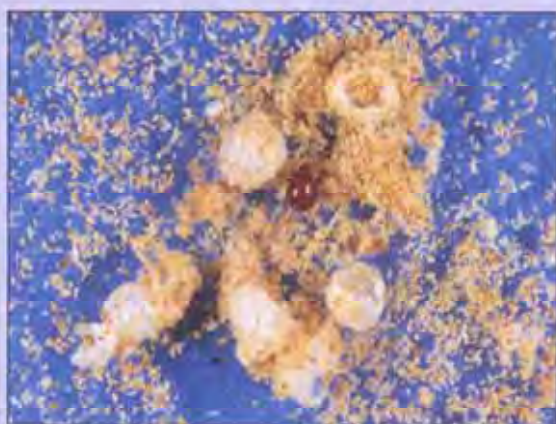
体長は最大で10mmくらい。銀灰色～銀黒色で長い触角と尾毛をもち、すばやく走りまわります。押入れなど暗い場所を好み、でんぶん質や動植物質の細片を食べます。糊づけされた壁紙や布などを食害することがありますが、あまり大きな害はありません。

防除

通風と乾燥、掃除などの環境対策が基本です。大量に発生した場合は殺虫剤で駆除しますが、コナチャタテ類の完全な防除は困難です。



●ニセセマルヒョウホムシ成虫(体長2~3mm)



●幼虫が作ったマユ



●カバイロヒョウホムシ(体長2.5mm)

独特の体つきをした甲虫で、室内でよく見付き、不快感を与えます。

形態と被害

体長2~3mmで、光沢のある赤褐色をしています。体は球形で長い触角と脚をもち、よくクモと間違えられます。

成虫・幼虫ともに動植物質のクズや破片、古い食品、動物標本などを食べますが、大きな害を与えることはほとんどありません。

室内を歩いているのがよく見付き、タタミの下に多数の個体が見られることもあります。また、鳥の巣からも発生します。

本種に似ていて、やや細長く光沢が鈍いものはカバイロヒョウホムシです。生態などは本種と同じですが、それほど多くありません。

防除

発生源を探して、その品物を処分するか、発生場所をきれいに掃除します。実際には発生源を見つけるのが難しいことが多く、わからない場合はタタミの下、床下、天井裏、戸袋(鳥の巣の有無)なども探してみてください。



●アメリカミズアブ幼虫(体長20mm)



●ハナアブ類の幼虫(呼吸管を除き体長15mm)



●ホシチョウバエ幼虫(体長7mm)



●ケバエ類の幼虫(体長20mm)

得体の知れない幼虫が家の内外で見つかって、びっくりすることがあります。よくある例を紹介しましょう。

アメリカミズアブの幼虫

扁平で大型です。ゴミ溜めの排水など腐敗した水中で生活します。成熟幼虫が蛹化場所を探して移動し、室内に侵入することがあります。発生源を殺虫剤(カルバメート剤など)で処理します。

ハナアブ類の幼虫

長い尾(呼吸管)をもち、オナガウジとも呼ばれます。腐敗した水中で生活し、成熟幼虫が移動することがあるため、庭などで発見されます。発生源をウジ用の殺虫剤で処理します。

チョウバエ類の幼虫

小さくて糸状です。室内の小さな水溜まりに発生する例があり、歯ブラシ入れのコップ、花瓶、洗面台の排水トラップなど意外な場所で見つかります。

ケバエ類の幼虫

やや大きく、体に多数の長い毛状突起があります。雑木林などの地面に、晩秋から冬にかけて多数の個体が集団で発生します。真冬には地中に潜り、目立たなくなります。多摩地区でときどき見られ、かつては“地獄虫”と呼ばれました。実害はありません。